

月別市況

1月

[鮮魚]

取扱数量は8,060tで、前年比2.6%減となり、平均価格は1,739円で、前年比0.6%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は4,449tで、前年比6.3%増となり、平均価格は1,437円で、前年比4.4%安となった。

[加工品]

取扱数量は6,112tで、前年比9.2%減となり、平均価格は1,228円で、前年比5.3%高となった。

元日の能登半島地震の影響は、被災地の漁業生産や水産加工品製造に表れた。なお、開市日数は前年より1日少なかった。

鮮魚は、「ぶり」が豊漁で入荷も潤沢であったが、シケの影響で「まあじ」などが減少して、前年比で減少した。冷凍魚は、荷動きが良好で数量が増加したが、平均価格は前年比で値下がりした。加工品は、練製品類は単価高で気温が高めだったため売れ行きが伸びなかった。

2月

[鮮魚]

取扱数量は8,729tで、前年比1.3%減となり、平均価格は1,649円で、前年比4.3%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,313tで、前年比13.6%増となり、平均価格は1,425円で、前年比4.2%安となった。

[加工品]

取扱数量は6,575tで、前年比1.1%減となり、平均価格は1,236円で、前年比3.8%高となった。

旧正月休暇の旅行客の回復などが業務需要を上向かせた。なお、開市日数は前年より1日多かった。

鮮魚は、月後半のシケで取扱数量に影響があったが、「かつお」「ぶり」などは入荷順調であった。冷凍魚は、荷動きがよく、取扱数量は前年比で大幅に増加した。加工品は、「しらす干」が昨年よりも取扱数量は減少したものの単価は安かった。練製品類は単価高も取扱数量は増加した。

3月

[鮮魚]

取扱数量は9,942tで、前年比4.5%減となり、平均価格は1,594円で、前年比6.5%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,948tで、前年比3.9%増となり、平均価格は1,420円で、前年比8.5%安となった。

[加工品]

取扱数量は7,253tで、前年比1.1%減となり、平均価格は1,282円で、前年比1.6%高となった。

数量、金額ともにほぼ前年並みであり、冬春商材が入り交ざったの販売となった。

鮮魚は、シケの日が多く入荷に影響したため取扱数量は減少し、平均価格は値上がりした。加工品は、「しらす干」で荷動きがよくなかったなど、取扱数量は前年比で減少した。

4月

[鮮魚]

取扱数量は10,917tで、前年比2.1%増となり、平均価格は1,375円で、前年比2.1%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は6,506tで、前年比10.2%増となり、平均価格は1,441円で、前年比1.1%安となった。

[加工品]

取扱数量は7,249tで、前年比3.7%増となり、平均価格は1,313円で、前年比1.1%高となった。

「24年物流問題」の影響により、遠方からの入荷に一部遅れがあったものの、全体としては大きな混乱はなかった。

鮮魚は、シケが少なく安定した入荷となり、大型連休に差しかかる下旬は、業務需用や量販店向けに伸長した。加工品は、「しらす干」が増加するなど、全体で取扱数量が伸びた。

5月

[鮮魚]

取扱数量は10,314tで、前年比1.4%減となり、平均価格は1,423円で、前年比0.3%安となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,481tで、前年比4.7%増となり、平均価格は1,475円で、前年比2.8%安となった。

[加工品]

取扱数量は6,780tで、前年比3.1%減となり、平均価格は1,325円で、前年比3.2%高となった。

大型連休中は業務向け販売が好調であったが、その後鮮魚では低調な販売となった。

鮮魚は、大型連休後、「マアジ」の入荷量がまとまり単価安となるなど、大衆魚を中心に安値基調となった。加工品では、「しらす干」は春漁シーズンで、入荷がまとまった。練製品類は値上げが続き、売れ行きに影響があった。

6月

[鮮魚]

取扱数量は9,871tで、前年比4.3%減となり、平均価格は1,377円で、前年比1.0%安となった。

[冷凍魚]

取扱数量は6,133tで、前年比4.0%減となり、平均価格は1,484円で、前年比9.6%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,768tで、前年比6.9%減となり、平均価格は1,381円で、前年比0.9%高となった。

シケの影響や開市日数が前年より1日少なかったこと等から、鮮魚、冷凍魚、加工品ではいずれも前年より取扱数量が減少した。

鮮魚は、シケや漁獲不振で入荷量に影響があった。「さば」「まいわし」などの大衆魚の入荷も少なかったことで取扱数量は減少した。加工品は、「しらす干」は昨年同期より単価安で、入荷数量も少なかった。

7月

[鮮魚]

取扱数量は9,289tで、前年比0.7%減となり、平均価格は1,561円で、前年比5.8%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は6,277tで、前年比18.1%増となり、平均価格は1,453円で、前年比0.3%安となった。

[加工品]

取扱数量は6,651tで、前年比2.2%減となり、平均価格は1,529円で、前年比5.1%高となった。

鮮魚が少なかった中で、冷凍魚が堅調な荷動きとなった。

鮮魚は、産地の水揚げ不振で「かつお」や「ぶり」が目立つ程度で全般的に少なく、平均価格は値上がりした。冷凍魚では、数十年ぶりの円安のため先高観から売上げは好調となり、取扱数量は前年比で大幅に増加した。加工品では、「しらす干」の数量が伸びたものの、単価は下がった。土用の丑の日を迎えた「蒲焼うなぎ」は、比較的安価な中国産の引き合いが強まったが、全体では前年には及ばなかった。

8月

[鮮魚]

取扱数量は8,972tで、前年比6.3%増となり、平均価格は1,631円で、前年比0.3%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,509tで、前年比0.5%減となり、平均価格は1,510円で、前年比4.9%高となった。

[加工品]

取扱数量は6,303tで、前年比1.9%増となり、平均価格は1,353円で、前年比1.3%高となった。

日向灘地震や台風上陸等により集荷や業務需要に一部影響があったものの、全体としては昨年と比べ数量、金額ともに増加した。

鮮魚は、台風の影響で入荷が不安定となったが、「かつお」「ぶり」などで取扱数量が増加した。「さんま」の入荷が前年同期より増えて好調な滑り出しとなった。加工品は、「しらす干」は数量がまとまったことなどで取扱数量を伸ばした。

9月

[鮮魚]

取扱数量は9,967tで、前年比同となり、平均価格は1,557円で、前年比3.5%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,287tで、前年比3.8%増となり、

平均価格は1,504円で、前年比0.5%高となった。
[加工品]

取扱数量は7,190tで、前年比8.4%増となり、平均価格は1,158円で、前年比11.2%安となった。

秋商材の出回りの時季となり、「さんま」と「かつお」が増加したが、「しろさけ」（秋サケ）が少なかった。

鮮魚は、「さんま」の入荷が増えて売れ行き好調であったが、サイズは小さかった。「かつお」が好調だったものの、「しろさけ」（秋サケ）は水揚げが少なく単価高となり売り上げが伸びなかった。加工品は、「しらす干」で原料の水揚げが伸びず集荷が振るわない上に、単価安となるなど、前年比で大幅に安くなった。

10月

[鮮魚]

取扱数量は11,697tで、前年比3.5%増となり、平均価格は1,506円で、前年比3.1%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は5,861tで、前年比0.8%減となり、平均価格は1,491円で、前年比1.9%高となった。

[加工品]

取扱数量は7,141tで、前年比0.3%増となり、平均価格は1,257円で、前年比3.4%安となった。

気温が高い日が多く秋冬商材の売れ行きが振るわなかった。

鮮魚は、先月に引き続き「さんま」の入荷が好調、「ぶり」や「かつお」も好調で増加し、不漁の「しろさけ」（秋サケ）の少なさを補った。加工品は、おでんや鍋物商材の荷動きが鈍かった。

11月

[鮮魚]

取扱数量は11,061tで、前年比13.3%増となり、平均価格は1,541円で、前年比5.1%安となった。

[冷凍魚]

取扱数量は6,628tで、前年比10.7%増となり、平均価格は1,504円で、前年比0.5%高となった。

[加工品]

取扱数量は7,224tで、前年比2.0%減となり、

平均価格は1,401円で、前年比0.9%高となった。

気温が高く、鍋商材のフグ、たら、おでん種の売れ行きが鈍かった。

鮮魚は、「しろさけ」（秋サケ）は依然不漁続きで入荷は少なかったが、「さんま」や「かつお」が前月に引き続き好調で、「ぶり」も数量が伸び量販店での販売も好調であったなど、全体では前年比で大幅に増加した。加工品は、気温の高い日が多かったことから練製品類でおでん種が売れ行き不振となり低調だった。

12月

[鮮魚]

取扱数量は10,298tで、前年比1.2%増となり、平均価格は2,096円で、前年比5.9%高となった。

[冷凍魚]

取扱数量は7,166tで、前年比1.5%増となり、平均価格は1,831円で、前年比7.5%高となった。

[加工品]

取扱数量は9,340tで、前年比0.9%増となり、平均価格は1,641円で、前年比1.0%安となった。

開市日数は前年より1日少なかったこともあり、年末商材の養殖魚類で取扱数量が減少して、単価高となった。

鮮魚は、「ぶり」、「まいわし」が豊漁で入荷量が増加した。加工品は、「しらす干」は不漁により前年より大幅に少なかった。正月用品の「かまぼこ」は増加した。